

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

日照不足の情報になりだす。長野気象台は、7月下旬から日照不足になっており、農産物の管理などに注意を呼び掛ける気象情報

報を発表。7月23日から8月9日の日照時間は、大町市で平年の50%。7月19日の梅雨明け発表後も、午前は晴れていても午後には曇りや雨の日が多く続いた。

天候不順は観光面でも大きな影響を感じた。日本海への海水浴目的の通過車両の激減の影響か、沿線のコンビニの売りにげに経営者の顔が曇る。そして関係者からは、観光シーズンも継続される白馬村内の国道での工事による大型車両の迂回や交互通行規制も大

きく影響したのではと嘆く。改良工事の必要性は理解できるが、時期や工事短縮の工法を望む観光関係者も多い。事是非知ってほしいとの声が続々出てくる。

が。一時的な現象は、人体への影響は無いとの情報だが、体の変調には気を付けた方が良さそうだ。農作物への影響、特に水稲の生育に農業関係者の関心が。節間伸長期の日照を好み日陰では育たな

い「陽性植物」、ジャガイモ、ホウレンソウなどのおよそ3〜4時間位の直射日光を好む「半陰性植物」、ミョウガ・フキなど1日に1〜2時間の日照で育てる「陰性植物」。異常気象に対応する栽培野菜の選定も今後の課題なのだろう。

れる第8回白馬カップ 大学女子ソフトボール大会。17校18チーム、過去最多の約460名の選手が競う。準備するスタッフは、まるで「借り物」競争状態だ。全国各地でスポーツによる地域活性化に向けた取り組みが重点的に取り組まれている中、現状のままでは良いのか、是非多くの人に現状を見てほしいと願っている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

今年の天候は不順だと嘆く現状を、今後は当たり前の気象だと考える施策への知恵が求められている

日照不足は経済だけでなく、人体や作物の影響も指摘されている。日光の紫外線を浴びないと、体内でビタミンDが生成されず、その結果カルシウムの吸収率が低下、いわゆる骨粗しょう症を引き起こすなど注意喚起

不足は、徒長気味となり倒伏も懸念。徒長とは、植物の枝や茎が間延びする事だ。野菜も正常に育った植物と比べて病弱・虚弱で害虫に対する抵抗力も弱く、暑さ寒さなどに環境の変化も受けやすくなる。

来週22日から開催さ

強い降雨の中、グラント周辺の草刈作業に汗流す大会関係者の熱意が継続する大会を支える。



強い降雨の中、グラント周辺の草刈作業に汗流す大会関係者の熱意が継続する大会を支える。